

第2次北名古屋市総合計画キックオフミーティング
～地域の未来のために、今始めよう～

報 告 書

日 時:2018年1月27日(土)14時～16時30分
場 所:北名古屋市文化勤労会館 大ホール
主 催:北名古屋市

未来に向かって

第2次北名古屋市総合計画キックオフミーティングは、新たに策定した2018年度から2027年度までの10年間のまちづくりの指針となる第2次北名古屋市総合計画を広く市民に知ってもらうとともに、計画の推進のために重要となる協働の理念について理解を深めるため、講演や公開討論を行うことにより、地域の未来のために、今何ができるかを考えていくきっかけづくりとするため実施しました。

参加者数：184人

配布資料：プログラム

第2次北名古屋市総合計画概要版

基調講演レジメ

北名古屋市民が選んだ手みやげ手帖

青と赤のカード各1枚（パネルディスカッションで使用）

プログラム

14:00 市長あいさつ

長瀬 保

14:05 第2次北名古屋市総合計画の概要について

鳥居 竜也(総務部副参事兼経営企画課長)

14:30 基調講演

今なぜ、市民協働が求められるのか

岩崎 恭典 氏(四日市大学学長、市総合計画審議会会長)

15:00 休憩

15:10 パネルディスカッション

これから求められる市民、地域、団体、事業所等の役割

●パネリスト

佐藤 要 氏(市レクリエーション協会理事長)

丹羽 裕美 氏(NPO法人次世代健全育成サポートあひるっこ副理事長)

江口 照美 氏(NPO法人地域福祉サポートおれんじの輪理事長)

平松 貴美子 氏(NPO法人フィール・ザ・ワールド代表理事)

平松 眞智子 氏(市消防団班長)

岡島 直樹 氏(市行政改革推進委員会会長職務代理)

岩越 雅夫(市統括参事)

●コーディネーター

岩崎 恭典 氏

16:30 閉会



北名古屋市市長 長瀬 保

市長あいさつ

皆様、こんにちは。本日は極めて寒い中にもかかわらず、こんなにも多くの方がお運びをいただきましたことを、本当に心から厚くお礼を申し上げます。北名古屋市は誕生して10年が過ぎ、様々なことがございましたが、皆様方の深いご理解とご厚情のお蔭をもちまして、10年を過ごさせていただきました。この10年を振り返ると、本当に数え切れない山坂、たくさんございましたが、皆様方の本当に力強いご支援の中で今日を迎えさせていただきました。そして今日、第2ステージとして、第2次総合計画の始まりとしての会を開催いたしました。この総合計画を策定するにあたり、本当に多くの市民の皆様方のご協力をいただきました。4,000人を対象とした意識調査、また、市民団体、事業所、さまざまな方々へのヒアリング、ワークショップ、いろいろとお話ししながら、特に審議会委員の皆様方には本当にご心労をおかけし、策定することができました。そうした中で、これからの北名古屋市も少子高齢化の時代を真正面に受ける、そんな折りでございます。この10年を振り返ってみますと、今建設しております名古屋市と連携したごみ処理施設、大きな事業であります。名古屋市といろいろと協議を詰めた中で施設を運営していただくということをもとに建設をしているということでもあります。そして、子育て分野では、児童センターを建設し、乳幼児をお持ちの方々にとても好評いただいているというところであり、少子化対策について力を入れているところであります。社会に進出するお母さん方がたくさんおみえになりますので、子どもたちをまちで包みながら、健全に健やかな形でしっかりと、これからの社会に貢献してくれる、子育て支援をしてまいりたい。また、小中学生の学力向上も併せた教育環境を整備し、しっかりと勉強できる、たくましく育ってくれるような教育支援も併せて取組をしているところであります。特に、大変気候の変動が激しい中で、小中学校への空調を設備いたしました。これも先行投資という形ではありますが、子どもたちの教育環境、穏やかな中でしっかりと学力が向上できる、そんな学力支援をこれからも引き続き取り組ん



でまいりたい、そんな思いでございます。

そんなことを思いながら、さらにこれからの１０年を見るときに、北名古屋市を囲む近隣の市町を見ても、この少子高齢化という中で人口が減少傾向にあるということであります。先般、小牧市長との話の中で、人口増が止まり、これから減少に入るというお話を聞きました。なぜ北名古屋市は人口が増えているのか、その要因を聞きたいという様なお話もしたところでしたが、しかしながら、いずれ北名古屋市も人口が減少するという推測をしております。近々リニア中央新幹線が開業されることによる影響、少子高齢化の時代に向けて、北名古屋市が更に発展をしていくためにどうしたら良いのか、これが最大のテーマでございます。そうした中で、市民の皆様、そして団体、事業所、それぞれの皆様とこれから一体となって、この北名古屋市をしっかりと支えていただくような市民協働の時代というものをしっかり見つめながら、市民の皆様方と一体となることがまちづくりに欠かせない訳でございます。本日、皆様方に第２次総合計画をお示しするにあたり、こうしたテーマを共有しながら、市民もそして行政も同じゴールを目指して、この北名古屋市を更にしっかりとしたまちづくりにお力添えを頂戴したい、そんな思いでございます。どうか、ご賢察をいただきまして、これからも格別なるご厚情、そしてご支援を頂戴しますことを心からお願いするところでございます。様々な課題が山積するなかで、財政も決して豊かではございません。限られた財源を有効に活用しながら、弾力のある行政と、そして、皆様方のご要請に添えていけるまちを、皆様とともにつくってまいりたいと存じますので、これからもご支援、ご厚情を賜りますよう重ねてお願いいたしまして、ご挨拶にかえさせていただきます。大変、限られた時間ではございますが、どうか皆様方にとって実のある時間でありますことを心からお願いいたします。ありがとうございました。



鳥居 竜也
(総務部副参事兼経営企画課長)

第2次北名古屋市総合計画の 概要について

はじめに

経営企画課長の鳥居と申します。それでは、第2次北名古屋市総合計画の概要について説明させていただきます。受付で配付いたしました第2次北名古屋市総合計画の概要版を使い、重要な事項について、かいつまんでご説明いたしますので、お手元にご準備ください。

総合計画とは

最初に総合計画について説明させていただきます。表紙をめくって、概要版1ページ上段をご覧ください。総合計画は、長期的な視点に立って本市のめざすまちの姿を示すとともに、その実現のために、今後10年間、どのように取り組んでいくのか、まちづくりの指針を明らかにした総合的な計画で市の最上位計画にあたります。北名古屋市として第2次の総合計画となりますが、今回の総合計画では、市民協働を大きな柱としており、広く市民の皆さんと共有することで、まちづくりを一緒に進めていくための羅針盤の役割を担う計画となっています。次に、下段の総合計画の構成をご覧ください。総合計画は3つの部分からなり、1つ目はピラミッドの一番上の部分になりますが、総合的、計画的な行政運営を図るための指針となる「基本構想」、2つ目の部分が基本構想を実現するための基本的施策や目標指標を示す「基本計画」、3つ目は基本計画に示した施策に対応する重点的な事業をより具体的に示す「実施計画」となっています。

総合計画策定の経過ですが、約2年をかけて策定しております。市民意識調査、市内団体ヒアリング、有識者ヒアリング、市民ワークショップなどにより市民の皆さんから意見を聴取し、市幹部職員を始めとする総合計画策定委員会などでたたき台となる素案を作成、昨年5月から有識者、市内団体代表者、公募者により構成する諮問機関の総合計画審議会で審議を重ね、10月に第2次北名古屋市総合計画案の答申をいただきました。その後、昨年の12月議会で「基本構想の議会の議決に関する条例」に基づき、第2次北名古屋市総合計画の「基本構想」について議決をいただいております。通常、基本構想と基本計画は、同時に策定されますが、実施計画は基本計画が決定後、別途策定することとなっており、現在策定中でございます。

基本構想

それでは、基本構想について説明いたします。ページが前後しますが、概要版の3ページをご覧ください。基本構想は、策定にあたって実施した市民意識調査で得た市民の意向を重

視して文案を決定いたしました。詳しく申し上げますと、市民意識調査の設問、「将来のまちづくりで大切にしたいこと」では、①「安全」、②「安心」、③「便利」、④「快適」、⑤「健康」、⑥「豊かさ」、⑦「発展」、⑧「ゆとり」、⑨「やすらぎ」、⑩「ふれあい」の10のキーワードが上位に選ばれております。これは、第1次総合計画の策定のため平成19年に行った調査と同様の結果となりました。そのため、これらのキーワードから成る要素が、市民が本市に求める普遍性の高い要素であると捉え、ひとつ前の2ページにございます基本構想として取りまとめました。

それでは、基本構想の内容について、再び2ページをご覧ください。基本構想は、上段の基本理念と下段のめざすまちの姿からなっていますが、基本理念1つ目は、「健康」、「豊かさ」、「発展」のキーワードから、『「こころ」と「からだ」と「まち」が健康で、活力あるまち』、「こころ」と「からだ」と「まち」の健康づくりを推進し、全ての市民がいいききと活躍する活力あるまちをめざします。健康とは、病気や虚弱ではないという意味だけでなく、豊かで安定した状態を示すため、まちの健康とは安定した産業や都市基盤を備えた活力あるまちであり、また健全な財政や緑豊かで健康的な環境都市を指しております。

2つ目は、「安全」、「安心」、「便利」、「快適」のキーワードから、「便利で安全・安心な質の高いまち」、安全・安心な生活環境の整備を進め、誰もが快適に暮らせる質の高いまちをめざします。予想されている巨大地震や水害などへの備えとともに、本市の特長である大都市近郊の生活都市としての利便性を活かし、快適な暮らしやすさから、広く人々に居住地として選ばれるハイクオリティなまちづくりを推進します。

3つ目は、「ゆとり」、「やすらぎ」、「ふれあい」のキーワードから「やすらぎと愛着を感じ、いつまでも住み続けたいまち」、やすらぎある暮らしと市民同士のふれあいを醸成し、子どもから高齢者までがいつまでも住みつづけたいまちをめざします。地域住民の結びつきを深め、人口減少や高齢化時代においても子どもから高齢者までがやすらぎと愛着を感じて永住できるまちづくりを進めます。

そして、この3つの基本理念を基に、めざすまちの姿を「健康快適都市～誰もがいきいきと安全・安心に暮らせるまち～」と定義し、その実現に向けたまちづくりを市民と行政が協働して進めていく際に共有するビジョンとして掲げるものでございます。

北名古屋市の将来人口

続いて4ページをご覧ください。ここで少し、本市の将来人口に触れたいと思います。計画の策定にあたり、本市の人口動向のデータを分析し、将来人口を推計しました。全国的には、人口減少が叫ばれる中、本市においては現在人口が増えている状況ですが、2020年をピークとして、その後緩やかに減少し、計画終了年の2027年には、86,600人前後と推計しております。また、下段に移りまして、2018年と2027年の人口を男女別、年齢区分別にみると、特徴として、75歳以上の女性が今後大幅に増加すると予測されています。

計画に求められる視点と土地利用方針について

続いて5ページをご覧ください。計画策定にあたって、本市を取り巻く状況と課題として計画に求められる視点を整理しました。「1 少子・長寿社会への対応」、「2 減災と環境共生の推進」、「3 連携の強化と市の魅力向上」、「4 地域の持続的発展に必要な産業の活性化」、「5 未来を担う人づくりと持続可能な地域づくり」、本計画はこれら5つの視点をもとに策定を行いました。

続いて土地利用方針です。6ページをご覧ください。土地利用については、人口減少や近隣の名古屋駅のリニア中央新幹線の開業などの社会状況の変化をふまえ、概ね20年後を見据えた考え方・方向性を示しております。1つ目は、コンパクトで高質な住宅を創出する「暮らしやすく魅力ある土地利用」、2つ目は、治水や防災対策を進め、「安全・安心なまちを支える土地利用」、3つ目は、産業の集積や企業誘致を進め、「地域の強みを活かし活力を生み出す土地利用」、4つ目は、大都市名古屋近郊における「都市と農地が共存する土地利用」でございます。これらの考え方・方向性をもとに、より具体的な土地利用方針などを示す都市計画マスタープランを現在策定中です。

計画の特徴

続いて7ページ、8ページをご覧ください。第2次北名古屋市総合計画の特徴について説明いたします。今回の計画では、第1次からの変更として大きく2つのポイントがあげられます。ポイント1として、第2次総合計画は行政だけではなく、市民の皆さんと協働してまちづくりを進める羅針盤となっており、そのビジョンをわかりやすく共有するために「施策が目標とするまちの姿」として、施策の展開により未来では、市民がどのように暮らしているか、どのようなまちになっているのかを簡潔な文章で示しました。また、「協働の考え方」は、本日の講演のテーマとなっていますが、市民、地域・団体・事業所等の行動の指針となるそれぞれの役割について示しております。今後は「施策が目標とするまちの姿」の実現に向けて、市民の皆さんと協働でまちづくりに取り組んでいく計画になっています。

ポイント2として、施策の進捗を測るため、施策ごとに指標を設けました。指標は、市民意識の向上を目標とする「市民意識調査指標」と行政活動の成果などの向上を目標とする「取組指標」の2種類があり、健康・福祉、教育・文化、安全・環境、都市基盤、産業活力、協働・行財政の6つの分野ごとに全部で113件あります。市民意識調査指標は2022年、2027年の5年ごと、取組指標は毎年計測し、計画の進捗を管理していきます。

分野別まちづくりの目標

ここからは、「基本計画」の概略について分野別に説明します。9ページ、10ページに移りますが、その前にページの見方を説明いたしますので、前方のスクリーンをご覧ください。基本計画は、健康・福祉、教育・文化、安全・環境、都市基盤、産業活力、協働・行財政の6つの分野に分かれています。分野ごとに見開きで示しています。左側ページは分野別のまちづくりの目標、右側ページでは、さらに細かい施策ごとに「目標とするまちの姿」、

「市民、地域・団体・事業所等の役割」、「主要施策」を示しております。なお、時間の都合もありますので、本日は、左側ページの各分野のまちづくりの目標のみ、ご紹介いたしますので、右側ページについては後程ご確認くださいと思います。

それでは、冊子の方に戻りまして、9ページをご覧ください。健康・福祉の分野では、「健康で生きがいを持って暮らせるまちづくり」として、全ての市民が、心も体も健康で生きがいに満ちた幸せな暮らしを送るとともに、子育てがしやすく、高齢者や障害者が住み慣れた家庭や地域で安心して暮らせるまちづくりを進めます。

11ページをご覧ください。教育・文化の分野では、「豊かな学びと心を育み文化の薫るまちづくり」として、豊かな人間性と社会性を持ち、国際社会を生き抜く子どもを育むとともに、成熟社会において生きがいや心の豊かさを感じることができる文化活動や学習・スポーツ活動に取り組むことができる環境づくりを進めます。

続いて13ページをご覧ください。安全・環境の分野では、「安全・安心で環境にやさしいまちづくり」として、水害や予想されている南海トラフ地震などの災害から生命や財産を守るとともに、交通事故や犯罪のない、安心して暮らせる安全なまちづくり、また、地球温暖化防止などに対応した環境にやさしいまちづくりを進めてまいります。

続いて15ページをご覧ください。都市基盤の分野では、「快適で利便性の高いまちづくり」として、定住してもらえる魅力的な居住環境と活発な産業活動の両方が展開できる環境整備を進めるとともに、農地を活用して、市民生活にうるおいとやすらぎが感じられる空間形成を整備してまいります。

続いて17ページをご覧ください。産業活力の分野では、「魅力的で活力あるまちづくり」として、多様な事業活動をさらに活発・活性化するとともに、安定した雇用創出を図り、経済基盤の強化を進めます。

最後になります、19ページをご覧ください。協働・行財政の分野では、「協働と連携のまちづくり」として、進展する地方分権や社会環境の変化に柔軟かつ的確に対応し、地域特性に見合った独自性のあるまちづくり、市民と積極的に協働のまちづくりを進めます。

第2ステージのキックオフ

21ページをご覧ください。第2次北名古屋市総合計画の体系図です。6つのまちづくり目標に28の施策を設定し、めざすまちの姿「健康快適都市～誰もがいきいきと安全・安心に暮らせるまち～」というゴールに向けて市民の皆さんと行政がタッグを組んで取り組んでいきます。以上をもちまして、第2次北名古屋市総合計画の概要についての説明とさせていただきます。

さあ、第2次北名古屋市総合計画の新たなまちづくりに向けたキックオフです。めざすまちの実現に向けて一緒に取り組んでいきましょう。ご清聴ありがとうございました。



岩崎 恭典 氏
(四日市大学学長、市総合計画審議会会長)

基調講演

今なぜ、市民協働がもとめられるのか

はじめに

皆さん、こんにちは。只今ご紹介いただきました、四日市大学の岩崎でございます。ご縁がございまして、北名古屋市のこれまで、そしてこれからについて非常に大きな影響を与える総合計画、10年後のこの北名古屋市のまちの姿というものを皆で考え、そしてこれまでの10年を振り返り、今後10年というものをどういう風に北名古屋市をつくっていけばいいのかという、そういう作業を手伝わせていただきました。本当にありがたい機会を与えていただいたと思っております。今、市長からのお話にもありましたが、リニアインパクトの影響などを考えていかなければならない。北名古屋市の今は、若い方がある程度お住いになっていますが、日本全国が人口減少の中で言うと、北名古屋市の人口がまだ比較的伸びているというのは、これは得難いボーナスであります。そのボーナスを活かしながら次の10年に向けて、今、考えていかなければならない。しかも取り組んでいかなければいけないというお話を市長が仰ってみえました。それとともに、その基本的な考え方を踏まえて、鳥居課長からは総合計画の概要について説明をいただいた訳であります。その中でちょっと簡単に振り返りますと、もう一度概要版を見ていただければと思います。

総合計画が策定された意義

至るところに、市民協働、協働という言葉が散りばめられています。この協働という言葉が、おそらくこの次の、これから始まる総合計画の推進エンジンなのではないかというように私は考えております。それは具体的に言えば、例えば2ページのところに健康快適都市、これがめざすまちの姿であります。この健康快適都市を実現するというのは、これは何も市が一所懸命に健康診断を受けてくださいよと市民の皆さんに言っても、市民の皆さんが健康診断をちゃんと受けていかなければ、なかなかその端緒となるものではありません。つまり、市役所が一手に引き受けて、北名古屋市の様々なことを全部やっていくという訳ではなくて、むしろ市民の皆さん、市長さんも仰っていましたが、企業、団体、様々な方々がともに、健康快適都市、北名古屋市をつくっていくためにどのようなことができるか、あるいは何をするか、それをこれから考えていく、そのベースになる。総合計画というのは、先ほど鳥居課長も説明されていましたが、多様なまちづくりの担い手が協

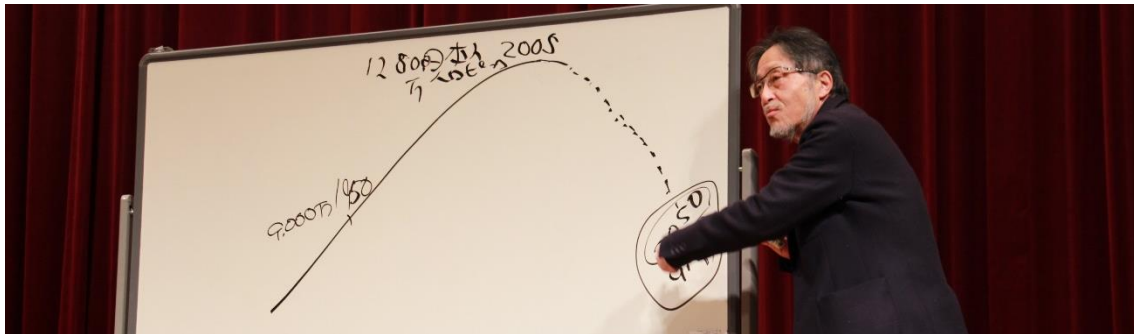
働いてまちづくりを進めるために共有する指針としてこの総合計画が策定されたんだということを改めて確認しておきたいと思います。

協働の必要性

健康診断の話をしました。例えば、それが今度の計画の進捗状況を測る指標にもすぐ出ているなと私は思っています。8ページをご覧いただきたいと思います。まずは市がやるべきことというものを書くということも1つ大きな狙いでもありますから、それをやっていくにしても、施策の進捗を測るために施策ごとに指標を設定しましたというように8ページのところに書いてあります。そして、代表的な指標として6つ、各分野の1つずつを挙げてあります。

今日、西春駅からこちらまで来るときに、四日市市も雪がよく降っているんですが、北名古屋市も大分降ったんですね。そして、それが日陰の部分はまだ雪が解けず残っています。本当に今年は寒いなあって実感しています。アンケート調査で、「お互いの地域の道路は安全に通行することができる」と答えた市民の割合が56.4%という現状値、ひょっとすると下回るかもしれない。それは何故かと言いますと、車道は大分雪が解けていますが、歩道の部分については雪がカチカチに凍っている所が多く見受けられました。そうすると、そこってもちろん市役所に余力があれば、その歩道も全部、市役所が除雪をしていくということは可能かもしれませんが、それが安全安心なまちづくりの一步なのかもしれません。しかし、この北名古屋市の全部の歩道を市役所がきれいに歩道も除雪していくというのは大変なことです。むしろそういった時に、ちょっと気づいた方々が家の前、家の前だけではなくてお隣の前も、あるいはお隣の方がちょっとお年を召していて、これはちょっと雪かきがしんどいぞというなら、ちょっとその横の部分まで、「じゃあ、私がやろう」というような形で除雪が歩道の部分ですっとされていけば、おそらくお住まいの地域の道路は安全に通行することができるというように考える市民の割合というのは上がるんじゃないか。市役所だけではなくて、市民の皆さんや企業の皆さん、それぞれの団体の皆さんも自分の役割に応じてこれからの北名古屋市のためにいろんなことをしていこう、皆で力を合わせてやっていこう。その時の共通の目標としてこの総合計画ができているんだということでもあります。だからこそ、鳥居課長は担当課長として、さあ、スタートですと声高らかに宣言されたのだらうと思います。

では、そんな計画が、なぜ今必要になるのか。そして、その推進エンジンと申し上げました協働がなぜ必要なのかということ、今日は限られた時間でありまして、実はこの後、総合計画の策定に携わられた皆さんにそれぞれの思いをお話していただきます。そして、その中では、皆さんにもご意見をお伺いするような機会も設けようと思っています。よって、私は今、これから総合計画の推進エンジンとしての協働というものが、またテーマにある通り、なぜ求められるのか、その時代状況をぐくぐくかいつまんでお話ししたいと思っています。



人口の超長期推移

皆さんのお手元のレジメをご参照いただきながら、お話を聞いていただければと思っています。私は、どこへ行ってもレジメで言いますと1ページの下の絵からお話をさせていただきます。これは、人口の超長期推移です。小さくて申し訳ありませんが、縦軸は人口が0人から一番上が1億4,000万人という膨大な数字で、縦に圧縮をしました。横軸は西暦200年という弥生時代の昔から、一番右側は2200年ですから、今を飛び越えた2200年、その2000年という時間を圧縮し、それぞれの時代に日本列島にどれぐらいの人がいたかという推計をつなぎ合わせると、こんな図になるということでもあります。いろんなことが分かりますが、大きく言えることの1つは、我々の体の中には弥生時代の昔からずっと、人口は増えるものだということに、もう何代も前から思い続けている、そういう思考回路で植え付けられているということです。弥生時代から人口は減ったことが無い訳です。特に明治維新以降、急激に人口は増加しています。日本列島の人口は3,300万人から1億2,800万人まで、9,000万人と増えたのです。我々は今どこにいるかというと、この2008年の人口ピーク、1億2,800万人をちょっと過ぎたところにいます。そして、これからまさに槍の片側のように人口がどんと伸びて、その人口がピークを迎えて槍の穂先です。そして、これから人口が落ちるといって、何の因果か我々はこの槍の先の所で現役世代を迎えているのだということでもあります。そして、これから、日本全体の人口が減っていくということ。これは有史以来初めてでありますから、これから起こるであろうことというのは、北名古屋市に限らず日本全国で起こるであろうということ、これは我々今まで経験したことがないこと、言ってみれば我々のDNAに反するような、刷り込まれた本能には反するようなことが、これからさまざま起きてくる、そんなことをこの1ページの絵からは感じる訳です。

さて、1ページの図で日本全体の話を使うと、あまりにも人口が急激に増えて急激に減るみたいなことしか分かりませんから、一番上の部分を拡大した図を次ページに付けさせていただきました。同じ図をボードに描きますので、それをご参照いただきながら、お聞きいただきたいと思います。人口がずっと増えています、そして、5年に1度の国勢調査で言いますと2005年が日本人の人口のピークということになるだろうと思います。そして、これがずっと減っていきます。そして、今のまま日本全体の人口が減るとすれば、

2050年には9,000万人まで減っていくと言われています。ずっと人口が伸びた時にいつ頃が9,000万人であったかと言いますと、1950年ぐらいが約9,000万人という人口です。ただ、この点線を今私たちは歩んでいる訳ですが、世界の歴史の中で、そして、世界の他の国で最初の50年間で総人口が3,000万人、ここが1億2,800万ですから、この3,000万人どっと増えて、そしてその3,800万人の人口が残りの50年間で誰もいなくなるような、そんな急激な人口変動をする国、1億人規模の国というのは無いのです。無いということはどういうことか、歴史上に無い、他の国も経験していない、ということは我々がこれから歩んでいくこの点線の道というのは、これはまさに手探り状態で進んでいくしかないのです。まずは、そのことを確認しておきたい、つまりモデルは無いのです。我々はなんらかの形で、この時代を乗り切っていく仕組みというものを我々がつくるしかないということです。今日、会場にお集まりの皆様、若い方も結構来ていらっしゃいますので、とても心強い訳ですが、2050年に9,000万人といっても、私ももう60歳を超えましたから知らんわ、後は野となれ山となれ、とついつい言いたくもなります。しかし、今日来ていただいている若い方、私が普段付き合っている20歳の学生にしてみますと、2050年というのは、今年が2018年ですので32年後です。20歳の学生は52歳になった時に9,000万人に人口が減ってしまう社会を迎えるのです。まさに社会の中堅になっている時代に2050年を迎えます。ですから、皆さんからいうと、お子さん、あるいはお孫さんにとってみると、この2050年という32年後というのはリアリティのある社会だということです。そして去年、あるいは今年ぐらいから生まれ始めた子どもたち、日本人の平均寿命が男女平均すると84歳、ということは去年生まれた子どもたちは、2101年、22世紀まで生きる子どもたちの顔を我々は見始めたのです。そうか、次の世紀まで生きる子どもたちが我々の前には、もはや今生まれ始めたんだ。そこまで思うと2050年にしっかりと、今、20歳の学生が52歳の時にきっちりと暮らせるような社会をつくっていくというのは、たまたま、この2005年に人口のピークを迎えてしまった、現役世代として迎えてしまった我々の責務なのではないかとつくづく思います。ですから、総合計画でいえば、人口について先ほど長瀬市長のお話がありましたが、今の段階では、まだピークは北名古屋市の場合は来ていませんが、いずれ来ます。いずれ来る時のボーナスの期間だと私は思っています。その時に、いずれ北名古屋市も人口が減っていく、日本全体がずっと人口が減っていく中で、北名古屋市だけが人口が増え続けるということは考えにくいことでもあります。とすると、この人口が減っていく時の仕組みというものをつくっていかなければいけない。そうしますと、まずは人口が増えた時にどんな仕組みをつくっていったか。私たち、あるいは私たちの先輩がどういう仕組みをつくられたかということは、ちょっと振り返っておく必要があるだろうと思います。



好調期の行政とこれからの行政

1969年、ここから遠く離れた千葉県松戸という所に一人の市長が選挙で誕生される、高度経済成長の真ただ中であります。日本の高度経済成長は、1947年のGDP、国民総生産はわずか5兆円でした。それが50年たった1997年のGDPは500兆円まで膨れ上がったんです。今日、会場にお集まりのちお年を召した方々は、もう実感されるでしょう、日本は本当に豊かになりました。だって、わずか50年間でGDPが100倍になったのですから、この豊かさを我々は享受しました。残念ながら、2017年のGDPは537兆円ですから1割伸びていません。これがまさに失われた20年だろうと思いますが、この5兆円から500兆円へとGDPが伸びる、この受益、益をどのように分配するか、ちょうど人口が伸びると同時に、この受益分配の仕組みをずっとつくってきたのです。その象徴となるのが、1969年、千葉県松戸市長、名前を言うとマツモトキヨシと言います。あえてカタカナで書くと、皆さんご存知ですね、あのドラッグストアチェーン、マツキヨの創業者です。あの方が市長になられて、何をされたかと言うと、レジメにも書きましたが「すぐやる課」というのをつくられた。なんでも市役所がすぐやりますよと。これは良いと、市民の皆さん、市役所へ電話をした。そしてさまざまなことを市役所が「いいですよ、いいですよ」と、またできたのです。5兆円から500兆円に伸びていきますから。生産年齢人口はずっと増え続けています。つまり、税金はどんどん毎年、毎年増えていきます。そうすると、去年やったことをそのまま次の年もやれば良いし、要するに市長さんであるとか、議員さんであるとかが考えることというのは、新しく増えた税金をどう使うかだけでいい訳ですよ。この時代に市長をやっておくべきだったろうとつくづく思います。しかし、そういう時代が長く続かなかったんですね。1995年に、実は日本の総人口が減る10年前に、生産年齢人口は、すでに日本全体としては徐々に減り始めました。さあ、えらいことだということで、例えば消費税が導入されたり、あるいはその後、日本全体がちょっとずつ良くなっていくとしても、全体の税金が頭打ちになるのであれば、頑張るところだけが頑張ればいいじゃないかといって、2000年に地方分権改革という改革が行われ、そしてその後、やはり3,300あった自治体を効率化するために、合併というものも考えていく必要があるんじゃないか、地方分権、合併、この北名古屋市も合併を経験しましたが、すべて、私はこれから右肩下がりの時代

がやってくるということの外的な条件整備だったろうというように思っています。そして、いよいよ本格的に人口減少が日本全体としては始まりました。私はその象徴になるのが、2011年の3.11だと思っています。その前の2010年の国勢調査のわずか5か月後に起こった3.11で2万人の方々がお亡くなりになりました。その時に、日本が人口減少社会に入ってしまったということを、我々に知らしめる地震だったとつくづく思った訳であります。よって、我々は頑張らなくちゃいけない。負担分配の仕組み、これから人口が減っていく、そして、お年寄りの数はどんどん増えていく訳ですから、この負担をどういうふうに分担していくか。そういう仕組みをつくっていかなくてはならない。その時に昔のように何でもかんでも市にやってもらうという、公、イコール市では決して無い、もう一度、公というものをつくり直そうというところから始める必要がある。私は今回の総合計画は、そういった協働の公をもう一度つくり直すための仕組み、その目標、何の観点で公をつくり直すのかということを示したのが、この総合計画なのではないかと思っています。

地域における市民の役割

実は、その時に北名古屋市が単独でやるべきことと、それから、北名古屋市が他の市と連携をしながらやるべきことというのが当然あると思います。しかしその一方で、北名古屋市は狭いようであっても、おおよそ小学校区ごとで見えていくと、これから人口がまだまだ伸びる、そして若い夫婦、子どもたちが、まだまだ増えるというところもあれば、あるいは小学校区によってはどんどんお年寄りの数が増えていって人口減少すら危惧されるという地域の差、特性というものは、これからどんどん目立っていきます。とすると、北名古屋全体としてやらなければいけないことも当然ありますが、むしろ北名古屋市内の小学校区域ぐらいでいろんなことをやるべきこと、そういうものが出てくる筈であります。それが例えば国でもそういった仕組みをこれから一所懸命つくってくださいと、皆さんもお聞きになったかと思いますが、6ページの地域包括ケアシステム、団塊の世代が2025年には後期高齢者になられるんですね、今のままでいくと、えらいことになる可能性がある。介護を受けたくても受けられない人が出てくる可能性、だとすると、市役所は一所懸命、医療の仕組み、あるいは介護が必要になったときの介護施設、そういったものは、これから整備をしていきます。しかしながら、例えば生活支援、それから介護予防。例えば生活支援というようなことで言うと、一昔前、このマツモトキヨシのすぐやる課ができる前には、「私、買い物に行くから、ついでに何か買ってきてあげるから、メモをちょうだい」ということをご近所でやっていました。それは今では、介護保険の適用を受けると家事代行サービスという形でできます。しかし、それを皆が利用するようになったら、介護保険というセーフティーネットが崩れていきます。家事代行、あるいは電球の交換、ごみ出しに困る人も出ていらっしゃる。そうすると、ごみ出し、さまざまな生活場面での困難というものを、例えば冒頭申し上げた除雪もそうです。そういったことを向こう三軒

両隣、ご近所でやれるような、そういう仕組みというものをつくっていく必要があるんじゃないか、それが協働のベースになるんじゃないかなと思います。しかも、もう1点だけ、この時にはそういった仕事、地域での仕事というのは無償でやるのが尊かったのです。しかし、これからの時代、無償では無いのですね。50年という時代はだてに過ぎ去った訳じゃない、そういったさまざまな仕事は小金になるのです。そして、その小金を小金だけではなくて、それをやることによって大きな生きがいを得ることができる、そんな仕事になってきているのです。それが生活支援、介護予防です。もう一つ言えば7ページにあるコミュニティスクール。やっぱり、どうしてもお年寄りのことが中心に話になってしまいがちですが、北名古屋の場合は特に、将来を担う子どものことについても、今、一所懸命、施策の中心としてやっています。それをもう一歩進めて、特に小学校に対する支援というものを地域の住民が積極的に支援するような仕組み、コミュニティスクールと言いますが、それを積極的に推し進めていく必要があるだろうと思います。例えば、小学校の先生は今大変です。道徳が教科化され、あるいは英語が入り、コンピュータープログラミングまで入っているのですね。中学校になると、今よく新聞紙上を賑わせますように、どうしても部活のことがあってブラックなんじゃないかということまで言われるようになる。しかし、住民が、子どもを小中学校に通わせている最大の理由というのは、ちゃんとした授業を、学力を教室でつけさせて欲しい。そうすると今、学校の先生はさまざまなことで勉強されます。勉強されますが、それを子どもにお返しするというよりは、むしろさまざまなことが降り掛かってきている、学校のさまざまな事務ですね。それのお手伝いを、地域の皆さんができるのではないかと。私はよく言うんですが、学校の図書館を地域の皆さんが運営したら、いろいろと面白いことができるのではないかなと思っています。地域には図書館の司書の資格を持ったお母さん方が、免許は持っているが、残念ながら、今全然活かしてない、そういうお母さんがたくさんいらっしゃいます。そういうお母さんが、学校図書館に行って子どもに図書の貸出をする。そして合間をみては、読み聞かせをするというような、そういう形ができればいいなと思いますし、そんなことも含めて、たとえば英語が教科化されるのであれば、小学校の先生は英語を教える。しかし、ずっととは言いません、何コマかは、北名古屋市も当然、ネイティブの先生が巡回して、英語のネイティブなことを教えたりするということは、当然おやりになるとは思います。しかし、それ以外に、地域で、俺は英語を使って海外でいろいろと商売して、あるいは「海外を回ってこんな苦労があったから英語は大切だよ」とか、英語を学ぶときの心構えとか、簡単な英会話、それがどんな国際的な誤解を招いてしまったのかとか、そんな話をしてくれるであろうお父さんも、多分、地域にはたくさんいらっしゃるだろうと思うのです。そういったお父さん、お母さんが、まずはここで小金を稼ぎ、しかも大きな生きがいを得るような、そんな仕組みがこれからできたらいい。それを総括して私は、協働ということになるんじゃないかと思っています。

女性の活躍

では、お母さん方が今、どういう状況にいらっしゃるか、11ページの図をご覧ください。北名古屋の女性の労働力状態の比較です。平成22年の北名古屋市の女性、これは小さなM字カーブを依然として描いています。70%ぐらいまで働かれるのだけれど、これはよく言われるように出産・子育ての際に離職されるということです。そして、もう一度、35歳から39歳ぐらいから右肩上がり、そしてずっと下がっていくM字カーブを描く訳であります。

子育て支援、働きやすいまちの愛知県1位、この総合計画のスタートをお祝いするかのよう北名古屋市は選ばれた訳ではありますが、私に言わせれば、働きやすいまちというのは、どこを今ターゲットにしているかということ、私はこのM字にへこんだところをターゲットにしているんだと思います。男性は20歳から24歳、25歳から29歳の間に98%まで働いている訳です。そして、ずっとそれが高止まりしています。およそ男性と女性で働く人の比率というのは20%違うのです。ということは、安倍内閣の働き方改革、1億総活躍社会、いつまで続く標語か分かりませんが、それに乗っかるとすれば、20%はいろんなことをやりたいという方々、機会があれば働くという方々がそこにいらっしゃるんだろうと思います。膨大な量、まさに私はこの北名古屋市には、女性が潜在的に何か働きたいなと思っていらっしゃる方がいらっしゃると思っています。そういう方々に、こんな仕事があります、通勤時間ゼロで、子育ての合間という仕事というのは、私は小学校であるとか、あるいは総合生活支援事業なんかでたくさん考えられるのではないかと考えています。

求められる役割の変化

もう一つ、12ページをご覧ください。2025年に団塊の世代の方々が75歳、後期高齢者になられるという年がまいります。それに向かって、12ページの下でありますけれども、40歳前半の有業者の男性の平日というところを見ると、これは図の見方を言いますと、縦軸が0%から100%、つまり100人に聞きましたということです。横軸が本当に見にくくて申し訳ないのですが、午前0時から23時です。例えば、平日の3時に40歳代前半有業者の方は何をしている人が一番多いかということ、ほとんどの人が仕事をしています。まあ当たり前と言えば当たり前です。では、右側の60歳前半無業者男性の平日の午後3時を見ると、今一番多いのはテレビを見ていらっしゃる方です。そして、休養していらっしゃる、趣味をやっている、こういう方々が一番多いというデータがあります。むしろ、この方々をテレビの前からやっぱり引き剥がす必要が、僕は多少あると思っています。今、人手不足で雇用力が旺盛です。こういう方々がどんどん会社の方に、非正規雇用で吸い取られていることは確かであります。しかし、女性の方々、男性の方々、まだまだ今の時間、特に60歳前半で、お元気でテレビを見ていらっしゃる方を、そういう方々に地域活動に出て来てもらう。そして、体を鍛えるためにボケ防止を兼ね

て、隣の人と話をしながら、ちょっとスコップをふるって雪かきをしてみようかとかをやりながら、まさに全体として地域の住民の皆さんの安全安心を守っていく活動をちょっとでも参加していく。そのことが、最終的に、この総合計画の目標を達成することになるのではないのでしょうか。その話し合いの場として、小学校区単位の協働の仕組みというのが必要なのではないかと思います。それに加えて、そういった今までとは違う市民の役割、企業の役割、団体の役割というのが求められる、そういう時代になってきたんだというお話を今日はさせていただきました。

この後、総合計画の策定にかかわられた皆さんと一緒に話をしてみたいと思います。第2部にバトンタッチをしたいと思います。総論として、お話するのは以上ということにさせていただきます。ご清聴ありがとうございます。



パネルディスカッション

これから求められる市民、団体、事業所等の役割

コーディネーター

パネリスト



岩崎 恭典
四日市大学学長



佐藤 要
市レクリエーション協会理事長



丹羽 裕美
NPO法人次世代健全育成サポートあひるっこ副理事長



江口 照美
NPO法人地域福祉サポートおれんじの輪理事長



平松 貴美子
NPO法人フィール・ザ・ワールド代表理事



平松 眞智子
市消防団班長



岡島 直樹
市行政改革推進委員会会長職務代理



岩越 雅夫
市統括参事



会場参加型パネルディスカッションの説明

司会お待たせしました。ここからは「これから求められる市民、地域、団体、事業所等の役割」をテーマとしてパネルディスカッションを行います。本日のプログラムをご覧ください。パネリストは、北名古屋市総合計画審議会委員を務めていただいた、市内の様々な分野で活躍中の市民の皆様です。順番にお名前を、ご紹介させていただきます。市レクリエーション協会理事長 佐藤要様、NPO法人次世代健全育成サポートあひるっこ副理事長 丹羽裕美様、NPO法人地域福祉サポートおれんじの輪理事長 江口照美様、NPO法人フィール・ザ・ワールド代表理事 平松貴美子様、市消防団班長 平松眞知子様、市行政改革推進委員会会長職務代理 岡島直樹様、北名古屋市より、市統括参事 岩越雅夫です。コーディネーターを、岩崎様にお願いしております。

ところで皆さん、本日のパネルディスカッションですが、パネリストからの提案で面白い趣向で皆様にもご参加いただきたいと思います。入場の際、プログラムと一緒にお渡ししております青と赤のカードをお手元にご準備いただけますでしょうか。本日は、総合計画を基に、市民の皆さんが、これから一緒にまちづくりを始めていこうという趣旨の会ですので、会場の皆さんにもこのカードを使って参加していただきたいと思います。どのようにカードを使うかといいますと、ディスカッションの途中で、パネリストから、会場の皆さんのご意見を伺いたい場合に質問を致します。その質問に対して、YESの場合や共感できるよという場合には、青のカードをこのように挙げてください。反対にNOの場合やあんまりそうは思わないなという場合には、赤のカードを挙げてください。それでは、一度練



習してみたいと思います。「今日は、とても寒い」と思う方は青のカードを、そう思わない方は赤のカードを挙げてください。それではどうぞ。

皆さん、挙げていただいていますね。ご協力ありがとうございます。パネルディスカッションの中で、パネリストからの質問に対し、カードを挙げていただきますようご協力よろしくお願いします。それでは、パネルディスカッションに入りたいと思います。岩崎様、よろしくお願い致します。

自己紹介

岩崎恭典はい、それではパネルディスカッションを始めたいと思います。先ほど、司会の方からも説明がありましたが、青と赤のカードにつきましては、難しく考えずにゲーム感覚で参加していただきたいと思います。第2次北名古屋市総合計画が策定され、北名古屋のまちづくりも第2ステージを迎えることになりました。一昔前までは、まちづくりにおける市民の役割は、行政サービスの受け手であり、各種サービスを受けたり、また、議会などを通じて、行政活動が適正に行われているかどうかチェックすることが主なものでした。しかしながら、人口が減っていく、負担を分担していくあり方を模索しなければいけないというときには、いろんな方にいろんな形で市のやっていたこと、かつて住民がやっていたことが中心になるかと思いますけれども、そういうものをもう一度やっていただくということも考えていただきたいという部分であります。したがって、市民の方々にさまざまな分野で今後も活躍していただき、そうした市民協働の推進を核として、計画全体を推進していこうというのが、この第2次総合計画の大きな特徴であろうと考えております。そこで、これから求められる市民、地域、団体、事業所等の役割をテーマとしておりますが、市民として、地域の一員として、団体所属の構成員として、また事業所にお勤め、事業所を運営している、それぞれの立場からまちづくりに関わるとはどのようなことなのかということを、このパネルディスカッションを通じて、会場の皆様にも感じて頂きたいなと考えております。どうかよろしくお願いします。では、ご登壇いただいた方に、ご自身の活動事例をご紹介いただきながら、活動を取り巻く状況やご意見について自己紹介を兼ねてお話をいただければと思います。それでは、佐藤さんからよろしくお願いします。

佐藤要皆さん、こんにちは、佐藤要です。よろしくお願いいたします。私は120歳まで元気で楽しく笑って、介護も受けずに生きていきたいと思っています。そして、私は、毎朝ラジオ体操を行っております。近くに鹿田第一公園がありますが、そのラジオ体操に何年か前に90歳になる女性がみえまして、最初は、「ああ、早く迎えに来て欲しいなあ」と言いながら来ていたのですが、その方が、毎朝毎朝ラジオ体操に来て、そしてみんなとお喋りしている間にどんどん元気になりまして、あまり歩くことができなかったのがたくさん歩くようになりました。その方がどうしてかと言いますと、毎朝来てお喋りをする、そのことがすごく元気になったんですね。それまで医者に通っていたのが、ラジオ体操に通えばもう医者も行かなくなる。ラジオ体操の一番良いことは、毎朝やることです。そして、体操自体も良いのですが、朝歩いてきて、お喋りをして帰っていく、そのことが良いと思います。市内では8箇所で行ってラジオ体操を毎朝行っております。登録といいますか手帳を配っておりますが、全部で700冊配りますので、そのぐらいの人が出ていると思います。それから、ウォーキング100選の会というのもやっております。ウォーキング100選というのは、市内の中にウォーキングのコースを100つくる。皆さんが、そこを歩いて健康維持できるようなコース、グルメ、カルチャー、癒やし、花とかいろいろ名前でも参加しやすくなるようにしたいと思って考えております。そして、私の本業、プログラムに書いてあるレクリエーション協会では市民を対象にしていろいろなイベントを行っております。桜まつり、ウォークラリー、スポレク祭、芋煮会とか、たくさんの人に参加していただいております。その他にボランティアで、小学校、保育園、子ども会、レクリエーション、いろいろな施設、それから団体のところへ行ってお楽しみを提供しております。中にもう一つ面白いというか、小学校で日本語ボランティアというのがありまして、外国の子どもたちが来ているので、そこで日本語を教える、ほとんど分かる子どもなのですが、私はそういう人生を楽しみながら、最期まで生きていきたいと思っています。



岩崎恭典ありがとうございます。まさにまちの姿を体現していらっしゃる、健康快適都市を体現していらっしゃる、佐藤さんでありました。では、次に丹羽さん、お願いします。

丹羽裕美NPO法人次世代健全育成サポートあひるっこの丹羽です。佐藤さんには、私の娘が保育園の時に、マジックショーを見せていただいてお世話になりました。NPOあひるっこは、10年前、市と一緒に立ち上げ、当時は宇福寺児童館とファミリーサポートセンター、そして陽だまりハウスということで始めました。それで10年成長し続け、今は健康ドーム内の支援室と六ツ師児童館、そして5つの児童クラブと児童センターきらりの夜の部と日曜日を、市からの委託



を受けてやっております。その中のファミリーサポートセンターの部分で、私は任されている者になります。ファミリーサポートセンターは、ご存知の方もいると思うのですが、お子さんをどうしても連れていけない用事とかがあった時に預けたい、そういう方々を依頼会員として登録してもらい、また、そのお子さんを預かって託児できるよという方を援助会員として登録していただいて、会員組織としてやっております。会員は今、600人ぐらいまして、中でも預かりができるよという方が150人程度おります。子ども子育て支援新制度というのが平成27年から始まり、その中の地域子ども子育て支援事業の一つとして、ファミリーサポートセンターは位置付けられました。今、私も援助会員でずっとやってきたのですが、援助会員の中には、今日おみえの先輩方もたくさん登録してくださっております。皆さんにも参加していただけるとうれしいなあと思っております。

岩崎恭典ありがとうございます。市誕生時にできたあひるっこさん、今、たくさんの仕事をやっていらっしゃる。まさに一昔前だったら、たぶん市役所が全部やっていたことでしょうね。けれども、その中で民間ならではのさまざまなことをおやりいただいているんじゃないかと思えますし、実際、そういう動きが北名古屋市の中にはたくさんあって、それがまさに、働く女性のいきいきするまち、愛知県1位にも選ばれた大きな要因ではないかとも思ったりしています。次に江口さん、お願いします。

江口照美皆さん、こんにちは。地域福祉サポートおれんじの輪の江口と申します。よろしくお願いします。おれんじの輪は、高齢者の方の笑顔が見たいなという思いから、2016年8月に高齢者の方々を支える活動を開始しました。まだ、日は浅くて、NPOになったのも昨年9月ということで、まだまだ、これから頑張っていたきたいと思えます。活動のメインとして、今やっているのは、毎週木曜日のお茶の間食堂を午前中に、午後には元気が出るカフェ、2つがメインの事業となっております。



食事は1食200円で飲み物も100円で提供し、お金が高いからとかそういうこともなく、誰でも来ていただける、しっかりとご飯を食べていただいて、栄養もとっていただきたいなという思いから安い価格設定にしております。お金もあまりいらない、皆と話ができる、そして美味しいごはんが食べられるということで、皆さんにご利用いただいております。先日、いつもご利用いただいております一人暮らしの高齢者の方が、「ここに来ると3つのいいことがある」と言われました。1つは、歩いて来るからここまで来るのが運動になる。2つ目は、みんなと話ができる。3つ目は、美味しいごはんが食べられる。この3つをお話ししてくれました。まさに、私たちも狙っている部分でもありましたので、とても嬉しかったです。また、午後のカフェでは、認知の人を介護しているご夫婦というか、奥さんを介護している旦那さんですが、最近良く来ていただきまして、その方が仰っていたのは、「やはりお家に居ると、どうしても二人だけになり会話が無い、笑顔もない。しかし、ここに来る

と、他の人と話をすることで、結構笑ってくれるのがうれしい」ということを言っていました。家族以外の誰かと話をすることでも大切なことだということも気づかせていただきました。そういうことから、ここの食堂やカフェをやる中では、今後考えているのは、地域の中でこういうちょっと寄ってお話ししていこうとか、ちょっと誰かと話したいなという時に寄っていただける集い場というイメージで進めていきたいなと思っています。その他の活動としましては、少し学びの場ということで、認知のことや介護のことをちょっと勉強するような機会を設けております。それと現在は、地元の司法書士の方と連携し、成年後見のことについて無料相談も開催することができております。最近のこととなりますが、食堂の日に合わせてシルバー人材センターの農園部の方が朝採り野菜を販売していただきます。高齢者にとっても好評で、「ついでに買って帰れるのがうれしい」ということも言っているらしいです。地域で活動している団体との連携もしながら、利用者さんに喜ばれる事業を広げていきたいなと思っています。

岩崎恭典ありがとうございます。2016年の発足ですから、まだ日は浅い。けれども、今お話をお伺いする限りで言うと、本当に地域のニーズ、これから発生してくるであろうニーズを含めて的確に対応されているなと思います。もちろん、食堂の話もすごく重要なんですけども、今ちょっとお話があった、やはり認知症の方を抱えている方の家族のレスパイト、休息ですね。こういうところも、そういうニーズがあるんだということで、これから対応されていこうとしている。これって、実は、本当は市役所もきっちりやっていかなければならないのですが、なかなか市役所では手の届かないところでもあります。しかし、これは我々に差し迫った問題としてあり得ることであって、そういう時にサポートがきっちり、そういう仕組みを民の立場で考えていただいているんだなあというのはとても心強い話だろーと思いますし、実際、それなら私もできるぞ、という人がこの中にも多分いらっしゃるのではないかな、それが協働の第一歩なのではないかなと、お話を今お伺いしていました。次に、平松さん、お願いします。

平松貴美子 NPO法人フィール・ザ・ワールドの平松と申します。

よろしくお願いいたします。私たちは、平成26年度から児童館を管轄する5つのNPO法人や行政と連携を図りながら、小学生から中学生を対象にした5つの英語教育の事業を展開しています。小学校2、3年生を対象に年間を通して児童館で会場をお借りし、開催している英語教室、小学生や保護者の方を対象にしたハロウィンのイベント、夏休みに開催する1泊2日の小学生の英語キャンプ、中学生を対象にした2泊3日の英語研修、春休みの



グアム英語研修ツアーを実施しております。自分のことや地域のことに誇りを持ち、それを発信できる、そういった未来志向の人材を育成したいと思い、さまざまな英語体験学習が提供できる機会をつくっております。地域のことに誇りを持ち、どういう視点で発信していく

かということが大事です。日本の他市町村の皆様にお伝えする場合には、日本語でしっかり伝える、そして、海外の方たちにお伝えするときには英語で臆せず発信していく、そんな子どもたちを、この北名古屋からぜひ、たくさん輩出していきたいと思っています。子どもたちが発信する地域の誇りは、住んでいる皆さんが何を誇りに思っているか、ということに繋がってきます。4年前、市内の親子の皆さんと「北名古屋市の魅力はなんだろう」ということで掘り起こしを始めましたところ、「一番は歴史民俗資料館だね」というような話になりました。また、市内のいろんな場所でちょっと買える手土産、お菓子、美味しい物があるよね、という意見が出ましたので、市民協働推進事業補助金を活用して、その情報をまとめた本をつくってみました。こちらの会場に来ていらっしゃる方にも、手に取っていただけたのではないかと思います。今日の配布資料として入れてあります手みやげ手帖です。気軽に市外の方に「これ、北名古屋のお土産だよ」とお歳暮やお中元のときに渡していただいたり、また、市内のお母様方がおやつに買っていただいたりという物の情報を一元化した訳です。これが私たちの考える、地域のことに誇りを持つ、というところのひとつのきっかけになったらいかなと思っています。

岩崎恭典ありがとうございました。先ほど、小学校、中学校の教育の現場の中で、地域の方々に支援をしていただく。その中で、特に英語というのはすごく重要だろうなというお話をさせていただきました。すでに平松さん、フィール・ザ・ワールドの皆さんは、それで実際にやっていらっしゃるのですが、1つだけ聞いておきたいのは、そういう平松さんの活動の中に、いわゆるおじさんの参加というのはどうなんだろう、僕はすごくそこが気になるんだけど。

平松貴美子はい。海外に赴任されたご経験を豊富に持っていらっしゃる男性の講師の方がいらっしゃいます。

岩崎恭典やっぱりそういう方々をどんどんお願いしたいなと思うんですね。それはなかなかまだ、そこまでいかない。それがまた、今日の課題なのかもしれない。また後ほど、それをお話いただければと思います。先ほどの私の話と、そういう形でちょっと繋がらせていただいたということであります。次に、平松眞智子さん、お願いします。

平松眞知子市消防団の平松眞知子と申します。よろしくお願ひします。阪神淡路大震災を機に男女が協働して参画するという基本理念のもと、消防団組織でも地域社会における女性の力を活かそうと女性団員の採用が始まりました。ここ北名古屋でも平成22年に私を含め5名の女性が入団し、現在11名が在籍しております。年齢は20代から50代と幅広く、職業も看護師、会社員、自営業とさまざまです。独身の方、子育て中の方、ご両親の介護をしている方、また親子で入団している方もいます。このように、幅広い世代であることや、家事、育児、介護の経験、



普段の生活をそのまま活かし、それぞれが活動に役立てております。防災という言葉からは、未だ男性が担う仕事というイメージが強く、女性の力がまだまだ発揮されていないのが現状です。しかしながら、核家族化や高齢化が進む地域社会では、予防啓発活動が重要視されています。予防指導、災害弱者対策、行政の啓発、高齢者とのふれあいや災害を語り継ぐという分野においては、女性の活躍が期待されています。北名古屋消防団は男性団員、女性団員、互いを補い合い、個々の特色を活かしつつ、日々の活動に従事しております。

岩崎恭典ありがとうございます。会場の皆さんも、ひょっとしたらちょっと驚かれたかもしれない、女性消防団員の方っていうのはね。どうしても消防団というと、男性の世界と考えがちであります。そういう中で、ああ、そうかと思ったのは、親子で入団ってすごいよね。絶対、それは重要なことだし、やはり家事とか介護の体験を消防団の活動に活かしていけるというのは、今までの男の世界ではなかなか考えられないことでありますから、すごくいいなと思っていて、女性消防団に入りませんかというような話も後ほどお伺いできるんじゃないかと思います。次に、岡島さん、お願いします。

岡島直樹皆さん、こんにちは。岡島直樹と申します。今日は、同級生が3人ほど、ここから見えるのでちょっと緊張しておりますが、よろしくお願いいたします。他のパネリストの皆さんは、地域の団体で活躍されているという立場で登壇されています。私は、コーディネーターを務めておられる岩崎先生が会長を務めておられる、市行政改革推進委員会の会長職務代理ということで、この場に座っております。他に市都市計画審議会、あるいは空き家対策委員会の委員も務めており



ます。普段は市内で住宅会社を営んでおります経営者でありまして、北名古屋を中心に、地域の住宅を設計施工しておるという立場であります。また、一級建築士であり、所属する公益社団法人愛知建築士会というところで、各市町の耐震診断やまちづくりについて、いろんな形でかかわらせていただいております。

岩崎恭典ありがとうございます。後ほど、いろいろなお話はお伺いすることにしたと思いますが、岡島さんと私、北名古屋が誕生し、これから新しい自治体をつくっていくという中で、行政改革の立場でずっとご一緒させていただきました。行政改革というと、どうしても費用を削減するという話ですが、そうではなくて、必要なところにお金を投入するために不必要なものを削っていかう、それが多分、行政改革だろうと思っています。ですから、行政改革というのは、この総合計画を推進するための一つの行政側のエンジンです。そして、総合計画全体を推進するエンジンが協働だと。行政改革は市役所の側の推進エンジン、協働は総合計画、市全体をつくっていくための推進エンジン、私はそのような理解をしている訳であります。岡島さんは、それを一緒にしていただいている仲間であります。

さて、自己紹介を兼ねて活動状況をお伺いしたわけですが、岩越統括参事からも、自己紹

介をお願いします。

岩越雅夫 只今ご紹介いただきました、市役所でお世話になっております統括参事の岩越でございます。よろしくお願いします。平成18年3月に市が発足し12年が経つという中で、第1次総合計画を基にしっかりと今まで行政をやってきたというところでございます。第2次総合計画、今まで以上に頑張りたいと思っておりますので、皆様方よろしくをお願いいたします。



岩崎恭典 ありがとうございます。では、具体的な話に入っていきたいと思えます。より暮らしやすい地域づくりについてのお話であります。総合計画を策定する中で、子育てや高齢者といった社会的な弱者への支援につきまして、今一度、地域のあり方について議論がされました。自分一人ではどうにもならない問題を抱えたときに、生活を支えてくれるのは身近にいてくれる地域の人々です。そのため、地域の困りごとを自分たちで解決するためには、市民一人ひとりが地域に関心を持ち、小さなことでもいいから、自分でできる活動を通じてまちづくりを行っていく必要があります。これは先ほども申し上げたことでもあります、この点についてのご意見を皆さんにお伺いしていきたいと思えます。いかがでしょうか。

ボランティア活動や地域の活動に参加していますか

佐藤要 ではちょっと、会場の皆さんに、このカードを使って聞いてみたいと思えます。「ボランティア活動や地域の活動に積極的に参加していますか」についてお尋ねします。参加している方は青、そうでない方は赤のカードを挙げてください、お願いします。

岩崎恭典 分かれていますね。赤が若干多いかなという感じでありますけれども、いかがですか、会場の結果を見て、佐藤さん。

佐藤要 そうですね、私はいろいろなボランティア活動に参加しておりますが、その活動は誰のためになるのか。地域のためにもなりますが、自分のためになるのが一番繋がっていると思うんですね。そういうボランティアということでもなく、いろいろなものの行事に参加するということもとても良いことだと思います。特に高齢者になれば、生きがいというものが大切なので、そういうものに参加をすることが、生きがいにもなるんじゃないかなと思えます。

岩崎恭典 ありがとうございます。ボランティア活動って決して他人のためだけではなくて、結局、自分が成長するのだらうと、いつも僕も思うのですが、その点についてはどうでしょう、特に高齢者の有償ボランティアなんかの点で。

江口照美 私は今、ちょうどボランティアというか、食堂を始める時に、エプロンをどうしようかと話していたら、おみえになった高齢者の83歳か84歳ぐらいの方が「つくってあげるよ」と言っていたのです。私は、てっきりボランティアでやってくれるんだと思っていたのですが、その方は今でも現役で洋裁をやっているので、私が「何かお礼をしなくて

は」と言うと、「いや、私はお金が欲しい」と言われました。昔で言うと、私たちが高齢者の方に何かやってもらうのは奉仕というか、やってあげるよという、タダかなって思ってしまったのですが、今はちょっと違うかなと感じています。というのは、もちろん生きがいにもなるし、それから自分がやったこと、きちっとした仕事をした場合はきちっと評価して欲しいという気持ちが入っていると思います。少しでも、そういうお小遣いを貰えるというのもすごく嬉しいことだしということもあるので、生きがいもいるのですが、ちょっとした有償ボランティアというのも必要ではないかなと思います、どうでしょうか。

岩崎恭典 どうでしょう、有償のボランティア。ボランティアはタダではなかなか僕は続かないという部分があるだろうと思います。特にそういう専門技術を活かしてのプロボノと言いますが、そういうところというのは、それに見合う対価というのも必要であり、評価されるということが必要。そうやることによって、お年を召した人が自分の持つ技量を提供しようと思うということが、すごく良いことだなあとと思います。その部分、例えば子育ての分野ではどうですか。

丹羽裕美 ファミリーサポートの援助会員は、有償ボランティアという位置付けになります。少しの対価を貰われてサポートをしてくださっているという形になります。それをすることによって「すごく癒やされたよ」とか、「子どもたちの笑顔をもらって自分も元気になったよ」というお話をたくさん聞くので、とても良いことだと思っています。元気な皆さんに、援助会員になっていただけたらと思います。援助会員の男性の方には、まずは奥さんが援助会員になっておられて、一緒にお子さんを同じお家の中で見てくださっていて、その後に「僕もなってもいいよ」と言っていただけで、援助会員になって活動もしていただけている方もいます。

岩崎恭典 そうですね。今日のこの男女比を見れば歴然なのですが、地域活動は残念ながら女性がまずは地域に根を張ります。それはもう当然、子育てで地域と繋がる。それから、お母さん同士が繋がるということがベースにはあるんだろうと思うのですが、そういう中で男性というのがちょっと臆病になっている。男性の地域デビューというのは億劫になっているという部分があると思います。ですから、それをご夫婦で、あるいはそういう関係で、たくさんの選択肢があれば、じゃあ自分もやってみようかなと、この時間にテレビを見るのではなくて、ちょっと出かけてみようかなあというように動き出すんだろうとも思うんですが。

子どもを育む活動に参加していますか

丹羽裕美 私も、会場の皆さんにお聞きたいことがあります。「子どもの登下校の見守りや学校行事のお手伝いなど、またファミリーサポートの会員さんでもあるという方」、そういう子どもを育む活動に参加しておられるという方は青のカード、そうでない方は赤のカードを挙げてください。



岩崎恭典参加している方は青、そうでない方は赤ということで。ああ、なるほど、やはりなかなか子どもの登下校の身守り、学校行事など学校の行事の子どもを育む活動に参加しておられる方というのは、今日会場にお集まりの方の中でもあまり参加をされていないという感じですね。

丹羽裕美はい、そうですね。もっと青が挙がるのかなと思ったのですが。そういう方々にどんどん参加していただいて、私たちの援助会員は、登録をしていただいたら絶対やらなければいけないというものでありません。ちょっと前に援助会員の中から交流会の講師をお願いして、マジックショーみたいなものを見せていただいたりとかしたこともあります。したがって、登録していただいた時に、こんなことできるよということをお聞きし、それに合わせてお願いできることもあるのかなと思います。

岩崎恭典なるほど、北名古屋市は子育てや学校に関する先進的な取組というのはたくさんあります。特に保護者と地域が連携し、地域ぐるみで子どもを育てているという取組は盛んだと聞いております。その中でファミリーサポートセンターでも、今お話があったように、さまざまな子育て中のお母さんに対する支援であるとか、子どもの居場所づくりなんかを行っていただいている訳であります。広く地域の方々にも来ていただいて、より大きな交流の機会を今つくっているという形がありますから、ぜひ、そんなに堅苦しくではなく、フル参加するという訳もなく、自分の得意技と思われることを、ちょっとこういうことでやってみただけだって、お気軽に参加していただくという、そこから始まるのかな。

丹羽裕美そうですね。もう1つ伝承遊びも教えていただいたことがあります。コマや割り箸鉄砲などをつくっていただいたり、教えていただいたりとかもあります。

岩崎恭典それぞれの得意技というものを活かす機会というのがあるんじゃないかなと思うんですけども。

家庭以外で話ができる場所がありますか

江口照美高齢者も子育てと同じように地域の中で皆さんの支援を受けながら、いろいろ支えていかなければならないのですが、先日新聞を見ておりましたら、20年後、先と思うか近いと思うかなのですが、2040年には高齢者の一人暮らしが4人に1人になるということが書いてありました。先ほど食堂に来てくださる方のお話を紹介させていただきましたが、やはり皆と喋れることがうれしいという時代が来ると思います。そういう時に、今から、そういう場を持っているかどうかといことを皆さんにお聞きしたいと思います。「家庭以外で人と話ができ、ちょっとそこへ行くと元気になるという居場所」、私は持ってい



ますという方は青、いやいや無いですという方は赤のカードを挙げてください。

岩崎恭典 はい、それではいかがでしょう。

江口照美 ちょっと思っていたより青が多いなと思います。もっと少ないと思っていました。若いというか、中高年の方が結構多いと思うのですが、高齢になった時になかなか家から出れないとかいうことになってしまいます。若い頃はそんなことを考えていなかったと思うのですが、これから年をとっていく中で居場所を1つ、今持っていない方も1つ、私はここへ行くといいな、ちょっと楽になれるなというような所を1つ見つけていただけるといいなと思います。

岩崎恭典 高齢者と子育ての分野の連携について、いろいろとあると思うのですが。

丹羽裕美 そうですね。青のカードが多くて、私もいいなあと思いました。そういう方々にも、あひるっこにも参加してもらい、そこで子どもたちとも接してもらえて、お話もいっぱい子どもたちに教えていただいたりできたらいいなと思いました。

岩崎恭典 どうでしょう、高齢者と子育ての分野の連携については。

江口照美 やはり子育てとの連携をとっていくという話ですよね。

岩崎恭典 高齢者と子育て分野の具体的な連携というのは、今の段階ではどうなのでしょうか。

江口照美 未だ無いです。高齢者の集まりの中に、子どもさんが来るとすごく生き生きして喜ぶ姿を見ます。だから、そういう接点を今後持っていきたいなと思っていたのです。

丹羽裕美 私はいろいろあちこち仕事に行くのですが、おれんじの輪の前を何度か通った時に声かけようと思った時にお休みだったりして、今度、こんにちは、と入って行こうと思います。

岩崎恭典 まさにこの場が面識者間のつくりなおしになるといいなと思うし、具体的にはやはりそれぞれの団体が、これからやりたいなと思っていることを出しあって、そして協力し合うような、そういう場を設定するのは、これはひょっとすると市役所の役目なのかもしれません。あるいは中間支援組織と言って、いろんな市民団体をくっつけていく、そういう市民団体ができていくと、それもそれでいいんだけど。それまでの間というのは、そういうことを高齢者の方、リタイアされた男性に出てきてもらい、いろんなことをやってみようというようなことを、ぜひ、ご提案いただくとともに、それをきっちりと受け止める市役所側の体制というのも、これは必要なと、今思ってお話を聞いておりました。子育て、高齢者福祉の分野で、地域づくりの重要性ということについてご意見をいただい



た訳ですが、そういった地域のあり方を見直す契機というのが、先ほど私もお話をさせていただきましたけれども、平成23年3月11日の東日本大震災であります。あの時に私たち、テレビを通じてしか何も手伝えることができませんでした。津波に流されることなく子どもたちが助かったというところもあれば、残念ながらほとんど子どもたちが亡くなってしまったという地域もあったり、それぞれ、まさに地域力というか地域のつながりというものの、それから助け合いというものの重要性というものが再認識されたんじゃないかなと思います。その意味で、防災についてご意見をお願いしたいと思うのですが、いかがですか。

訓練に参加していますか

平松眞知子では、私も先にカードを使って質問させてください。会場の皆様の中で、「消火器やAEDの取り扱いの訓練に参加したことがあるか」教えてください。一度でも参加したことが有る方は青、一度も無いという方は赤を挙げてください。

岩崎恭典おお、すごいなあ、ほとんどの方が参加されていますね。

平松眞知子ええ、すごいですね、ちょっと今びっくりして、うれしいというよりも驚きです。私も防災訓練を始め地域での自主防災会などに消防団員として参加しておりますが、やはり防災対策の強化を図るためには、市民の方お一人おひとりが防災意識を高め、訓練などに参加をしていただくことが本当に大切だと思います。そして、防災訓練にかかわらず、いろいろな自治会のボランティアやいろんな活動に参加していただくと、やはりいざという時、災害時の孤立化を防いだり、支援を受けやすい環境になったり、また支援をしたりという可能性も高くなると思いますので、やはり地域活動の活性化が防災活動の活発化にも繋がり、地域防災力の強化にも繋がっていくかと思います。

岩崎恭典そうですね、その通りだろうと思います。今日、会場にお集まりいただいた方々この土曜日の午後にこういうシンポジウムを聞きに来ようというふうに思われた方々というのは、もともとやはり地域活動のある程度やっていらっしゃる方々なのではないでしょうか。その方々にとってみると、防災訓練への参加、AEDの操作というのはたぶん必修科目なのでしょう。問題は、今日お集まりいただいていない皆さんに、これをどう広げていくかということになるのかなという気がします。

岡島直樹今、人がかかわる地域防災力ということでソフト面からのお話がありましたが、私は建築士としてハード面から地域の防災力という形で、愛知建築士会では10年以上前



から北名古屋市、清須市、豊山町の旧西春日井郡のエリアで耐震診断にかかわり、私自身、１００件以上の木造の住宅の耐震診断を実施しております。各行政からのＰＲの効果もあり、耐震診断は積極的に皆さんが受けられ、私も多い年では年１０件ぐらい実施しました。しかし、問題はその次の段階です。ほとんどの住宅は今の耐震基準に当てはめるとかなり弱い建物が多いため、診断の結果、耐震の改修をしなければいけないということになるのですが、改修までいくステップに上がる方が非常に少ないという現状です。それはいろんな理由があると思うのですが、私ども建築士の力不足でもあると思いますので、地域防災力の強化という点から、我々も更なる協力をしていきたいと思っております。

岩崎恭典耐震改修工事そのものが、かなり値の張るものだということから耐震化がなかなか促進されないという課題がある訳ですが、この点について、岩越統括参事いかがでしょうか。

岩越雅夫市では、国と県を含め９０万という補助金を出し、お応えしているという状況でございます。耐震補強になりますと多額の費用がかかるということで、皆様方なかなかこれに手を付けていただけないということがございます。しかし、家屋の補強だけではなく、家具止めやテレビが倒れないように補強するなどをやっていただく、住民の皆様方にそういったことをお願いするというのも大切と思っております。申請件数で見ると、毎年５、６件程度しかないということが現状でございますので、今後そういう点も含めまして、もう少し市の単独で補助が出せるような、そういうことも考えながら進めなければならないと思っておりますが、予算にも限りがございますので、更に検討していく必要があると思っております。

岩崎恭典耐震改修工事は、自分の身に降り掛かってくるもの、いつ起こるか分からない事に対し、なかなか自前の資金で投資できない。だから、少し市で補助させていただくのだけれど、なかなか今件数が多くないという状況。これはある意味、自分で自分の身を守るという自助の部分を、自分でつくっていきましょうということです。ただ、それが必要ですが、それとともに災害時には公助が来るまで、要するに公の支援が来るまではしばらく時間がかかると言われています、大規模災害であればあるほど。その間に、自助と公助の間に、共助、おそらく協働というのが共に何かをつくっていくということだとすれば、共助というのは共に助けるということだと思います。その共に助けるという仕組みが必要になる部分だろうと思います。その中でも、特に災害時の弱者になりやすい高齢者の支援と



いうところについてどうでしょうか。

江口照美 以前より思っていたのですが、やはり高齢者って耳が聞こえにくくて、外で何が起きているかということ知らぬままテレビ見てたりとかも多く、今だと災害時の要援護者の登録をしておけば安心みたいなのところがあったりとかしています。今まではそんなに高齢者の割合も少ないですが、これからもっと、2025年には75歳以上の高齢者の数が大幅に増える自治体が多くなる訳ですから、災害時の高齢者支援についての仕組みをもう一捻りいるのかなと思うのですが、どうでしょうか。

岩崎恭典 そうですね。高齢者の方々をいざという時にきっちりと助ける、支援する。そういう仕組みというのが絶対必要になるだろうと思うのですが、その前提としては、やはり地域の絆をもう一度深めていく、取り戻すと言っていいのかな、そういう仕組みが必要だろうと思います。

佐藤要 いわゆる災害時、地震や水害、その他いろいろありますが、被災した人にとっては救援というか、お互いに助け合うということが前提だと思いますが、それでも自治会とか町内会、そういう組織が非常に重要になる訳です。私の住んでいるところの町内会で言いますと、同じ町内会の中で小学校が2つに分かれています。その状況下で避難した場合、あっちもこっちも居て分からなくなってしまうと思います。そこで自治会というものを、少し見直しても良いのではないかと思います、新しいコミュニティというか。自治会が、防災や地域の防犯、自主消防、水防、災害時の避難、環境面や溝の掃除、夏祭りやいろんな楽しみ、健康、安全、交通、社会福祉、団体の育成などが実にさまざまな活動を自治会の中で実施されています。今の自治会というのは、昔の大字区からきて、そのままの形で構成されていますので、面積、人口や世帯数に大きな差があります。すると、地域の人たちのサービスも差があるのではないかと考えます。災害時に、例えば同じ小学校に避難したとしても、その小学校には複数のいろんな自治会の人があり、こちらの自治会の人、こっちの人でいろいろ受けるサービスが変わってくるとかも生じるのではないかと。私どもの町内会のように、双方に行ってしまうと、どちらにも確認しなければならないですし、救援物資を渡すにしても混乱するのではないかと思います。より効率的に行うためには、小学校単位ぐらいの組織としてはどうかと考えます。北名古屋市市内ですと10の小学校がありますので、そのぐらいに再編し、それぞれの新しいコミュニティができれば、効率的で平等になるのではないかと思います。そして、新しく住みだした人や昔から住んでいる人がそこで集まって、祭りから防災から学校のこと、コミュニティスクール、いろん

なことがあります、そういうものがより良くできるのではないかと考えております。

岩崎恭典なるほど、実は総合計画を策定する審議の過程で、自治会の関係について、結構時間を割いて議論をしていました。この点について、岩越統括参事、お願いします。

岩越雅夫自治会というのは32自治会ございまして、それぞれ今、佐藤さんから仰っていただいたとおり、大きい自治会もあれば小さい自治会があるということで、バランスが悪いという状況でございます。岩崎先生がいつも、先ほども言ってみえましたが、共助ということから自治体とは別の仕組み、地域自治組織について、一般的に今叫ばれております地域自治組織を小学校単位でつくって、そこに消防団、民生委員、防犯委員、消防などのいろんな組織を含め、1つの小さな自治組織というものをつくっていったらどうかと思っております。今後10年の課題として、我々も含め頑張っていきたいと考えているところでございます。先般、人と組織と地球のための国際研究所代表者の川北秀人氏にお越しいただき講演をされたなかで、小規模多機能自治というような組織をつくったらどうかということも仰ってみえました。そういう組織があまりにも進んでしまいますと、小さな自治体に包括するような気もしますが、どこまで組織を上手く皆さんとの協働で進めていけるかが問題と思っております。あくまでも、皆さん方とともに協働で進めていきたい、そういった組織を我々としては今後10年の間につくって進めたらどうだろうということと考えておるところでございます。皆様方のご協力をいただいて、ご理解をいただく、これが大切ではないかと思っておりますので、岩崎先生のお力も含めましてお願いしたいと思っております。

岩崎恭典ありがとうございます。

丹羽裕美今お聞きし、小規模で多機能で小学校単位で言えば、宇福寺児童館の子どもたちは、すごく遊ぶ中で児童館の地域のことをよく知っています。皆で防災、ぐるっと歩いて回って、防災マップがつくってありました。まさしく動けるというのを考えると、この前のまちづくりワークショップに参加した時に、同じグループになった消防士の方が、「中学校とか高校、大学生の人たちもどんどん巻き込んで」という話をされていました。そこに、小学校の高学年の子たちもとても頼りになるので、一緒に入れていただいて、協働という大きな輪に入れていただけるといいなと思いました。

岩崎恭典そうですね。災害時において、小学校低学年の児童は、どちらかといえば弱者の立場だけれども、高学年から中学校、高校、そして何よりもこの北名古屋市には大学もある訳ですから、そういった皆さんが、いざという時には、これはもうみんなが共助に走らなければいけない。その核となるような組織というものは、これはいざという時のためにも必要になるのではないかと。では、それが自治会で良いのかというと、実は、先ほど時間が足りなくて言えなかったのですが、2015年の国勢調査では、おそらく世帯主が一番多かった年と記録されると思っています。つまり、これからは世帯の数が減っていきます。そうすると、自治会というのは世帯主が構成単位として活動する団体ですから、もう

動く人の数が徐々にこれから減っていくという状況になっていく可能性があります。すると今、一所懸命、自治会の方がいろんなことをやっていらっしゃる訳ですから、その方々が、自治会が中心となって、佐藤さんが仰るように小学校区ぐらいの単位でもう一度面識社会をつくり直し、いざという時に備えるような、そういう組織というのをつくっていくのを、岩越統括参事も仰ったように、これからの施策の1つのメインテーマとすること、私は十分やっていかなければいけないと思っています。ちょっと話を変えて、新たな分野に取組んでいくとうような活動について、ちょっと聞いてみたいのですが。

市の魅力創出

平松貴美子では、本日の配布資料に手みやげ手帳という冊子が入っていますが、これは市民協働推進事業補助金を活用してつくらせていただいたものです。そこで質問させていただきます。この冊子を「今日、初めて見たよ」という方は赤、「知っている、見たことあるよ、使ったよ」という方は青のカードを挙げていただけますか。

岩崎恭典これはどう評価すればいいですか。

平松貴美子ありがとうございます。逆にちょっと嬉しかったのは、今日ご紹介させていただける方が沢山いらっしゃったということです。この冊子は、保育園や幼稚園に通っている方全世帯に配らせていただきました。また、昨年秋に文化勤労会館でママライフデザイン研究所が開催されたイベント「手みやげ手帖博」として、この冊子に出ている人たちが出店をし、お土産博を実施した時に配布をさせていただいたという、大きく言うと2回だけだったものですから、本日来ていただいた方にお渡しできてすごく嬉しく思います。この冊子をつくった理由は、北名古屋市の魅力は何かについて、私たち自身がずっと考え続けているからです。市は税収入をもっと稼いでいかなければならないということもありますし、人口減少社会において北名古屋市だけが増えていくということはありません。東部丘陵地帯、みよし市、豊田市、日進市、長久手市にどうやったら負けられないような地域づくりができるのかということを、まず、ここにいらっしゃる皆さんに、ぜひ考えていただきたいと思います。長久手市やみよし市の地域には、何となく雰囲気の良いお店がいっぱいできています。そして、イケアやプライムツリーといった大きなショッピングモールもできました。でも、私たちにもきっと何か、そういったものには負けられないような北名古屋独自のものがあると思うのです。それは、少しずつでも人口が増えているということに何か絶対ヒントがあると私は思います。皆さん、もちろん分かっていると思いますが、住みやすさ、地の利の良さ、これはもう絶対に東部丘陵地帯には負けません。名古屋駅まで行こうと思ったら1時間程度かかります。ここから名古屋駅、そして15分から30分で新幹線に乗れます。この便利な点は、すごく大きな利点だと思います。しかし、北名古屋の人に魅力は何ですかと聞くと「無いよね」や「何かな」と仰るのです。無い訳が無いので、皆さんで考えて、自分の中で魅力は3つ、「これとこれとこれが北名古屋



屋市の魅力だよ、ぜひ一回遊びに来て」と言って欲しい。私は、他市町村の子育て世代の人には「引っ越して来て」と言っています。「すごく子育てしやすいまちなので、ぜひ皆さん来てください」とお誘いしています。北名古屋の皆さんは控え目で、なかなか自分のことを良いと仰らないですが、ぜひ魅力を自分の言葉で伝えて「こういうところが良いよね」とお互いに言って、それを言葉に出すと、皆がそういう気分、ああ、そうだよね、そういうところもあったよね、こういう点も良いよねと皆で認識できる、そういう気分になれると思います。私は英語教育をやっていますが、英語圏の文化というのは良い点を認め、ポジティブに捉える、そういった文化です。北名古屋の盛り上がりには私自身も貢献していきたいと思っています。

これからの地域活動について

岩崎恭典 ありがとうございました。いろんな意見をいただきました。おそらく市民協働というのは、今日集まっていたいたさまざまな団体もそうですし、今日会場にお集まりの皆さんも、自分が持っている個性、特性、得意技、そんなものを地域の課題解決のために協力して行動すること。その目標は、この総合計画に示されているんだという訳です。地域のために活躍するということなのですが、その前提として個人の生きがいとかが重要です。健康快適都市を目指すためには、個人が元気でいなければならない。元気というのは、それは何も体のことだけじゃない、人と人との付き合いであるとか、社会での生き方、地域のつながり、そういうものをもう一度取り戻していく、生み出していく、そんなきっかけに今日のキックオフミーティングがなればと思います。鳥居課長の先ほどの説明で「スタートです」と仰いました。まさに今日のこのキックオフミーティングを北名古屋の今後10年のためのスタートラインにしたいと思う訳です。最後に、パネリストの皆さんから一言ずつお話しいただけますでしょうか。

佐藤要 いろいろな事を皆と一緒にやっていきたいと思っていますが、私は最初に申し上げたとおり120歳まで生きたいと思いますので、120歳まで生きるためには、周りの人と一緒にいろんなことをしながら生きていかなければならないと思いますので、自分一人ではなくて、皆さんと一緒にこれからの北名古屋市のまちづくりを進めていきたいと思っています。先ほど、自治会は災害時だけではなく、全ての面において良くなればいいと思います。名古屋市では、小学校単位のコミュニティができており、とても羨ましいなと思っています。北名古屋市も皆が一緒になって、きれいでいいまち、健康で爽やか、そして、みんなが元気になるまちになってくれればと思います。

丹羽裕美 私たちは、子どもたちが生きていくすべを身に付けていけるようにしていく、自立していく、主体性をもって生きていけるように、いつも考えて仕事をさせてもらっています。先ほどからお話に出ている雑誌プレジデントウーマンの記事において、北名古屋市が出産・子育てに向くまちランキングで、愛知県の中で1位、そこにファミリーサポートの使いやすさの部門で6位に入っております。皆さんの力により1位という位置にいると思い、また協力もさせていただき、お願いもし、皆で助け合いながらまちづくりを進めていきたいと思っています。行動力というのは、行政よりも私たち市民や団体の方が絶対あると思っておりますので、皆さんと一緒にやっていけたらいいなあと思います。最後に1つ、聞きたいことがあります。「行動力は、行政より、絶対私たち市民や団体の方があ

る」と思われる方は青のカード、「いえいえ行政の方が、行動力がある」という方は赤のカードを挙げてください。

岩崎恭典 どうでしょう、青か赤か。

丹羽裕美 青が多かったです。ありがとうございます。

岩崎恭典 ちょっとドキドキしましたが、青が多かったということでうれしいですね。

江口照美 今後10年間の総合計画を、今日キックオフするということですが、その中で、私たちの団体おれんじの輪としては、これから増える認知症対策について取組を進めていきたいと思っております。2025年には5人に1人と厚生労働省も示しておりますので、それに向けていろいろやっていきたいと思っています。その中で今、認知症の方で、デイには行かないけれど、ちょっとお手伝い、ボランティアに来ていただいている方がいます。その方は、ちょっと自分がやることで自信を付ける。例えば、自分が家事をやってきたからお茶を入れてあげたりとか、洗い物を積極的にやったりとか、そういうことができるのです。だから、そういう早い時期に自分たちができること、できる場をつくってあげたいと思っています。それには、認知症の方も一所懸命やれるんだということを、地域の皆に知ってもらいたいということもありますので、今年はそういうものをモデルとして進めながら、認知症の方がいる居場所と働く場をつくっていききたいと思っています。

平松貴美子 私は今現在、行っているさまざまな活動を通して、子どもたちが本当に自信を持って自分のことを発信できるような子どもたちをつくっていききたい、そういったきっかけをつくっていききたいと思っています。皆さんの中で、一緒にやってみたいと思われる方は、いつでも結構ですのでぜひご連絡ください。いつでもサポートを求めています。よろしく願いいたします。

平松眞知子 東日本大震災では、本来、被災者を支援する行政自体が被災したということもあり、そこで公助の限界が明らかとなった一方で、先ほどのお話にもよく出てきましたとおり、住民自身による自助、そして、地域コミュニティなどにおける共助の重要性も明らかになりました。もし災害が昼間に起きたら、やはり家にいる可能性が高いのは女性と子どもと高齢者だと思います。そのような時に、家に居る大人に防災資材の取り扱いの知識

があるかないか、そして救命救急の知識があるかないかでは、対応に大きな差が生じてしまいます。防災活動は男性の仕事というような性別役割分業で男性任せにはせず、今日ここにいらっしゃる女性の方、そして高齢者の方、もう年齢や性別を問わず、皆さんが積極的に防災活動に参加していただきたいと思います。

岡島直樹 今日、岩崎先生の講演にもありましたが、行政改革推進委員会では、これまでの行政サービスの中で、これからも行政が担わなければならないもの、それと市民が市民協働という形で協力してできるものということでお話がいつもされてます。今日、他のパネリストの皆さんの話を聞いて、市民ができる範囲というのがかなり広いなと感じて、私自身も勉強になったところです。私も市民として、また建築士として、これからも耐震診断、耐震改修、それから空き家対策など、まちづくりに取り組んでいきたいと思います。それから地震にあって罹災後の避難所の安全性というのがとても問題となります。避難所が安全なのかを知らないままに入って2次災害を受けるということもあるので、そこには建築士と行政がかかわり、判断をした上で避難所として開設するという判断も必要と思っております。そういった立場からも関わっていきたくて考えています。

岩崎恭典 ありがとうございます。最後に、岩越統括参事からもお願いします。

岩越雅夫 今、岡島委員から避難所の関係についてお話がありましたが、北名古屋市の避難所については、主に各学校の体育館が主な避難所となっています。体育館については耐震を施しておりますので、安心して避難をしていただきたいと思います。また、皆様方のいろんなご意見をお聞きしながら、皆様方が協働を実践していただいていると感じました。特に消防団は協働の走りと思っておりまして、それが広まりつつあり、各自治組織の協働組織をつくっていただいて、草取りとかごみ拾いまでやっていただいているところがございます。これからは皆様方のお力をいただきながら、行政を進めていきたいと思っております。特に行政としましては、子育て支援を、保育園の待機児童ゼロをめざし、今も実現している訳でございます。また、児童クラブ、放課後子ども教室、そういったものについて他の市町ではほぼやれていないところを、北名古屋市は今進めているという状況でございます。自分たちのまちを市役所が褒めていてはいけないのかもしれませんが、引き続き子育て支援を進めていきたいと思っております。今後についても、プレーパーク、これは子どもが自由に遊べるような公園を取り入れたり、共稼ぎ世帯の方が残業などで夜遅くなった場合にお子さんの食事ができるような子ども食堂の支援などをNPOのご協力をいただきながら支援をしていきたい、また、そういった仕組みをつくってまいりたいということも考えております。高齢者の方につきましても、きたバスなどを利用して病院の巡回、それからスーパーに買い物が行けるような仕組みづくりを行っていかねばならないと考えており、今後10年でそういったものも取り入れて進めていきたいと思っております。また、障害者の方、特に知的障害の方、グループホームや専門医による相談窓口などの支援もしていきたいと考えております。さまざまな政策を推し進めるには、

皆様方のご協力なくしてはできないと考えております。協力を得ながら市政を前向きに進めていきたいと思っております。ややもすると、パフォーマンス行政をして、みんなの気を惹くということやられる市長もおみえになりますが、地道に市政を進め、着実に皆様方のお力になるような行政を今後ともやっていきたい、一步一步着実に行政を進めていくということが私どもの役目と考えております。今後も皆様方のご協力とお力添えを得て行政を進めてまいりますので、よろしくお願いしたいと思います。

岩崎恭典ありがとうございました。最後にお伝えしたいのは、今日がキックオフだということです。会場にお集まりの皆さん方が核となって、これから10年の間のさまざまな市民活動や地域活動を担っていただく方々と思います。課題は、人口の85,000人から皆さんの数を引いた、他の方々に地域活動をいざなっていくかということだと思います。防災、子育て支援、高齢者の支援、いろいろな課題がたくさんあります。そういったさまざまな課題を市民同士が繋がり、そして自分のちょっと持っている得意技を活かす形で、いろんなことができるだろうと思います。そのベースになるのは、市民同士が知り合っていること、知り合いだぞという面識社会。それから、もう1つ重要なことは、市がそういう活動をずっと下支えするという。例えば介護保険で言えば、介護保険制度をこれからも北名古屋は一所懸命支えていく、つくっていく、維持していく。しかし、介護保険のさまざまな事業については、市民の皆さんがいろいろとやっていただけるのであれば、それはもう市民の皆さんにいろいろとお願いしますと。保険制度というセーフティーネットは、絶対これからも北名古屋が維持していきますというような、そういうセーフティーネットの維持があって初めて、成立する面識社会の再構築であり、そしてさまざまな事業への取組ということになるのだらうと思います。今回のこのパネルディスカッションは、まさにこれからの10年、そういった北名古屋市をつくっていくためのキックオフでございました。ぜひ皆さん方、今日のお話を持ち帰られて、ご近所の方、職場の仲間の方々に一人が一人ずつでも語っていただければ、徐々にその環も広がっていくだろうと考えます。10年は長いようで短いです、その間に環境は激変していきますので、その環境に合わせる形で皆さん方がそれぞれ取り組まれること、そしてそれを統括するような形、それをうまくまとめるような面識社会をつくっていくということからいうと、やはり小学校区程度に何らかの地域の自治組織みたいなものが必要になるのではないかと。岩越統括参事が心配されるように、どこまでをやってもらうか、この点について私はいつも思うのですが、仕事をする組織であって、そこが小さな自治体のように意見をガンガン言うとか決議をすとか、そういう機能ではなくて、むしろ仕事をするという、そういう組織として必要になってくるのではないかとこのように思っています。それらを時間をかけて検討しながら、次の10年というものを皆さんで、北名古屋市をつくっていこうじゃないかということ最後に申し上げまして、以上でパネルディスカッションを終了させていただきます。今日は皆さん、どうもありがとうございました。

●参加者の意見

パネリストの熱心な思い、北名古屋市のこれからを真剣に意見する話など、時間を超過してまでも熱弁される様子に感銘した。

